

れんぎ  
認定特定非営利活動法人 日本雲南<sup>れんぎ</sup> 友誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室  
Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 惠蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

## 第74号

発行日 2020年(令和2年)12月15日

会報

# 「25の小さな夢基金」第15期生181名 厳しい選抜を乗り越えて春蕾クラスへ入学

昆明市女子中学(日本の高等学校相当)に今年も181名の生徒が入学し、協会の「25の小さな夢基金」プロジェクトで全員を支援することが決まりました。

彼女たちの家庭環境では高校進学は難しい状況でしたが、雲南省婦人連合会の援助で進学の夢がかないました。春蕾生たちはふるさとを離れ、これから3年間寮生活を送ります。大学進学を目指し、朝の自習、授業、夜10時半までの自習と勉強漬けの毎日です。大学を卒業すればふるさとに戻り、教師や司法関係者、自治体職員など地域の発

展に欠かせない人材となります。

「25の小さな夢基金」は里親サポーターからの一方的な支援だけではなく、年2回の手紙のやりとりや卒業式への出席など交流する支援です。しかし2020年の今年は新型コロナウイルスの規制により、皆様からお預かりしたお手紙は日本から直接持参来ず、郵便で送られました。現地のボランティアや様々な団体のご協力や貢献でこのプロジェクトは活動を続けることができます。

25の小さな夢基金……2006年より貧困により進学が困難な雲南省少数民族居住地域の女子を支援するために始まりました。里親サポーターと1対1で支援し、手紙のやり取りを通じて高校卒業までの3年間を支える支援制度です。

昆明市女子中学……1908年設立、雲南省で女子教育のさきがけとなった学校です。日本の国立中学に当たり、中学(初中班)と高校(高中班)があります。中学は義務教育で男女共学です。選抜した「春蕾班」(全寮制の春蕾クラス)で構成されています。

数字で見る  
協会20年の歴史

「25の小さな夢基金」プロジェクト  
春蕾生大学進学率

2008年~2020年 卒業生数 **698**人

大学進学率

**92.3%**

### 支援が決まってない生徒が、あなたの支援を待っています



里親サポーターの皆さまにご支援開始時にお渡ししているご支援生徒プロフィール用の写真撮影が昆明市女子中学にて行われ、今年と同校の先生方に授業の合間を縫って、ご協力いただきました。

当日お天気に恵まれ、新入生はそれぞれの民族衣装を身にまとい、ちょっと緊張した面持ちで、写真撮影に臨みました。

先生方、お忙しい中、写真撮影にご協力いただきまして、本当にありがとうございました。



少数民族の女子教育支援  
「25の小さな夢基金」  
2020新入生  
新規サポーター  
募集中

### 子どもたちの未来をサポートしてみませんか?

今年も女子高生181名を支援することが決まりましたが、まだ●●名の生徒の里親サポーターが決まっていません。彼女たちを3年間、ご支援いただけるサポーターを募集しています。

※「25の小さな夢基金」への支援は税額控除の対象になります。詳細は協会公式HPの「25の小さな夢基金」のページをご覧ください。

詳細は: 協会公式HP  
http://www.jyfa.org

「教育支援」

「25の小さな夢基金」

お問い合わせ・お申し込み ↓  
東京本部事務局  
(月~金、10~17時)

TEL 03(5206)5260  
yunnan@jyfa.org

# 訃報 杉谷隆志前専務理事ご逝去



▲2015年の米寿を祝う個展にて



▲2003 中日友好水墨画作品交流展・北京



▲2001 協会支援小学校第2校目「吉能小学校」開校式

10月1日、協会の杉谷隆志前専務理事がご病気のためご逝去されました。享年92歳でした。

杉谷先生は水墨画家として、そして墨美会の会長として長年、ご活躍され、墨による友好と墨芸術の向上にご尽力されました。

杉谷先生に株式会社技術評論社社長で協会の片岡顧問をご紹介いただき、協会の礎

の構築に大変にご尽力され、協会が今日まで活動を続けられておりますことを心より感謝申し上げます。

協会のシンボルマークは杉谷前専務理事の発案により雲南の頭文字「Y」と日本の「日」を基軸に組み合わせ考案されており、成長を表す樹木の伸びる様子と少数民族の数を現す25枚の葉、そしてマークを逆さ



まにすると「春」となる、まさしく雲南と協会を象徴するシンボルマークとして無くてはならない存在です。

改めまして杉谷先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 来歴

水墨画家・墨美会会長 神奈川県茅ヶ崎市在住のところ、2020年10月1日没。享年92歳。

1928年神戸市に生まれる。神官の家系で幼年期から文学に親しむ。青年期は東京に転居、中学校の国語教師を勤めながら、小劇場活動に没頭し演出を学んだ。40代で水墨画の道に入り、半世紀にわたり水墨画家として、また、書画の研究・教育・評論家として活躍。我が国における墨芸術の発展と普及に尽力した。無手勝流と称しつつ、詩(詞)書画一体の自由な画風で新時代の水墨画を追求した。中国写生の旅と芸術交流を精力的に重ね、悠久の中国大地及び日本各地を巡り、大自然と人々の生活や風俗を描いた作品を多数発表し国内及び中国において注目された。

1979年、墨青会を立ち上げ、1982年、日中国交正常化10周年記念「日本の百景展」を上海で開催し、水墨画を通して日中民間交流の架け橋を築いた。その後、1984年炭火会(2003年以降墨美会)を創設、炭火展・墨美展を全国公募展として発展させ、併せて墨美術の研究・交流・情報誌「墨美」を発行し、広く全国の水墨画界の交流を進めた。その他、芸術交流面のみならず民間の日中友好交流活動でも活躍した。

主な著書 「杉谷隆志中国百景画集」「宗其香・杉谷隆志友情画集」「杉谷隆志80寿詞と墨画集」「墨の素描集」「中国山水画技法」(胡振郎共著)「水墨画レッスンブック」他多数。主な個展 中国百景展(北京展・上海展・東京展)、杉谷隆志米寿墨画展、杉谷隆志卒寿墨画展他多数。

その他 墨美展、日本総合水墨画展、他団体展出品多数。日本総合水墨画展はじめ、各種水墨画展の審査員多数。(年号等詳細略)

## 「25の小さな夢基金」日本語習得を目指して日本語授業再開!



◀2014年当時の日本語の授業

目指して日本留学を目標とする教育支援プロジェクトを、来期より開始します。これに先立ち昆明市女子中学の正規授業科目として日本語科目を導入し、日本語試験の受験や大学受験に向けて開始しました。

以前は日本語を学ぶ大学生がボランティアで日本語を教えていました。今回は中国で日本語学校を展開し、許緯新顧問が理事長・総裁を務める新世界教育にご協力いただきます。

春蓄生の中には独学で日本語を勉強していたり、日本留学を希望したりする生徒も

「25の小さな夢基金」で支援する昆明女子中学校春蓄クラスの日本語授業が再開されます。この度、協会は従来の教育支援活動からステップアップし、更なる上級教育の実現を



いて、授業を楽しみにしているようです。日本語授業の様子は『彩雲の南』や協会公式HP、Facebook等で報告させていただきます。



## 連載



# 協会ボランテア通信

## 大宮支部特集

### 連載 第18回 鳥羽清弘さん



民族衣装をまとってイベントに参加した際の鳥羽清弘さん

2007年5月、埼玉県上尾市の第一玄貴樓で大宮支部が誕生して13年。支部長は雲南省出身の寺内明子さんです。それ以前は、2004年発足の「雲南食文化研

究会」(平林知人会長)に寺内さんがいました。寺内さんは料理が大得意で、料理を教えていただく事になりました。その際、寺内さんから雲南聯誼協会の東京本部を紹介されたのが大宮支部としての活動の始まりでした。私は協会の会員となり、大宮支部の一員となりました。現在、大宮支部の会員及び協力者は30名近くいて、今後も会員数をさらに増やしたいと思っています。

大宮支部の主な活動を紹介します。毎年1月初旬の寺内支部長宅での新年会。前年の大宮支部活動報告と会員の協力への感謝が述べられ、新しい一年の活動計画が紹介されます。そして支部長お手製の素晴

スタッフとして来てくれ、自分の友達も誘って見に来てくれました。そして「雲南食研究会」が発足。レシピの整理、会の管理等あらゆることをしてくれました。鳥羽さんは途中で退会してしまいましたが、この会は13年間も続き、会長の平林さん(そば職人で5年前はテレビにも出演)は、協会を通じて雲南省で2回、そば交流会を開催。残念なことに病気のため

らしい料理が振舞われ楽しい宴が催されます。

毎年5月の連休にはさいたま市民の森・見沼グリーンセンターで「国際交流活動」があります。秋にはさいたま市文化センターの「中秋晚会」や上尾市文化センターの「国際友好フェア」、またJR浦和駅前の「国際ふれあいフェア」、「雲南写真展」などが開かれます(2020年はコロナ禍のためにすべて中止になりました)。

会員の皆さんは雲南省少数民族の衣装を着てパネル等の説明をします。ご希望があれば来客の皆さんにも民族衣装を着

てもらい写真を撮ってもらいます。その姿を見ると他のブースにはない国際交流の輪が広がっていくのが分かります。こうした活動も大宮支部会員及びご協力者の皆さんの力で歩いてきて、既に10年以上になりました。86歳となった高齢の私を邪魔にもせず、メンバーとして参加させていただいていることに感謝々々です。今後も東京本部のご指導のもと、会員の皆さんと共に尚一層努力してまいります。どうぞ皆様よろしくお願

大宮支部長 寺内明子

い申し上げます。

「25の小さな夢基金」



# 里親サポーターの皆さんからの春節のお手紙と贈り物が届きました

「25の小さな夢基金」で支援している春蕾生へ里親サポーターの皆さんから春節の贈り物とお手紙が届きました。皆さんからの贈り物とお手紙は、親元を離れて寮生活を送る彼女たちにとって励みになり、困難を乗り越える勇気を与えています。

贈り物やお手紙は、例年は協会職員が昆明へ行って直接手渡していますが、今年はコロナ禍で昆明へ行けません。協会が責任を持って雲南支部へ送り、支部職員がお届けします。その様子は次号にてお伝えします。



▲小野寺梨沙さん

▲贈り物の数々



## 協会雲南支部 現地法人登録 のお知らせ



協会は18年前から雲南省昆明市にて雲南支部を運営してまいりましたが、今年、現地で法人登録されましたので、ご報告いたします。今後はご協力いただいているボランティアの皆さん、ならびにご協力者の皆さん、雲南で活動する他のNGOやNPO、岩手県の現地法人等との横のつながりを大切にし、協力・連携して活動の幅を広げていきたいと思っております。

現地の活動や情報、文化を積極的に発信してまいりますので、ぜひ、お楽しみにお待ちしております。

### 連載 「25の小さな夢基金」 卒業生の今

## Vol.7 多くの女の子たちに温もりをありがとうございました。

### 沙小花さん

2013年入学 第8期生 イ族



沙小花さん



2013年入学当時

沙小花さんは6歳の時に父親が病気で亡くなり、母親は出稼

ぎへ行ったため、雲南省麗江市の孤児院で育てられました。孤児院の院長の推薦で昆明市女子中学の春蕾クラスに入学、「25の小さな夢基金」の支援生となりました。2019年7月に無事高校を卒業し、広東省の

大学へ進学。大学の夏休みに久しぶりに帰省し、高齢になったおばあさんに会い、孤児院を訪問したそうです。沙さんから初鹿野理事長に近況報告が届きましたのでご紹介します。

私の人生は雑草だらけですが、私は自分の人生の証人です。今年20歳になり、皆さんに出会ってずっと幸せだと思っています。6歳の時、父が病気で亡くなり、父の記憶は永遠に止まりました。元々裕福ではなかった家は更に厳しくなりました。母は一人で三人の子どもを育てました。世界中の多くの母親がそうであるように強く偉大で、今も母を尊敬しています。

7歳の時、私の人生は大きく変わりました。

麗江民族孤児学校に引き取られ、200人以上の子どもが一人の人を「お母さん」と呼んでいました。私は「学校に通えたんだ」と知りました。

この学校は人生の始まりで、そこはまた家庭のようでした。そこで読み書きを習い、人としての行い、琴の弾き方、感謝の気持ちを学びました。

こうしたすべてのことがありがたく、貴重です。成績はずっと優秀で、9年間学習委員を務めました。そのため中学を卒業する時、先生は私を昆明市女子中学（日本の高校に相当）の春蕾班に推薦してくれました。そして協会と出会い、私の人生のもう一筋の光に出会いました。

初めて昆明に来て、ここをとっても好きになりました。ここは一年中春のようです。女の子たちは蕾のように希望を胸に膨らませています。本当に昆明が好きで、私と同じように

援助を受けている女の子たちも大好きです。

休日には、協会のおじ様とおば様たちが訪ねて来てくれたり、サポーターの方が学習用品、支援金、服、挨拶の手紙を送ってくれたり、私たちは一緒に青春を過ごしたのだと私には分かっています。

今、大学2年生になりました。私は惠蘭おば様、王静さんなどの支援者とずっと連絡を取っています。生活は少し良くなりました。でも苦しい時に支援してくれた皆様には永遠に感謝しています。私だけではなく、多くの女の子に温もりを与えてくれて本当にありがとうございました。

言葉には温度があります。この手紙から深い感謝を読み取っていただければと思います。

翻訳：胡安静（雲南支部インターン生）

「25の小さな夢基金」

### 家族 で 支援

## 「25の小さな夢基金」新サポーターのご紹介

陳本栄さんは昨年、中華人民共和国駐日本国大使館の詹孔朝総領事にご紹介いただきました。すぐに協会活動に賛同いただき、昨年より奥様と二人の娘さん、そして二人の息子さんの6名で10名の「25の小さな夢基金」春蕾生をご支援いただいています。陳さんに未来を担う子どもたちへの温かい思いを書いていただきましたので、ご紹介します。



この度、NPO法人日本雲南聯誼協会（初鹿野惠蘭 理事長）東京本部事務所を通じて、微力ながら子供達への応援をさせて頂きました。また、家族のみならず一緒に「25の小さな夢基金」昆明市女子中学春蕾班の生徒たちにささやかな支援できたこと、大変喜ばしく思います。

未来を担う子供達には、家庭環境に左右されることなく、自分の夢に向かって挑戦してほしいです。意欲や希望を持つ子供達が、家庭の経済の状況で可能性を失うことのない世界になってほしいです。

また、自分の応援が少しでも子供達の力になり、

将来子供達が社会で活躍出来ることを期待しています。そして彼らも同じように助けが必要な方に手を差し伸べてほしいです。一人でも多くの子供がチャンスを掴み夢に向かってほしいです。そして全ての子供が健康に育ってほしいと願っています。

今後でもできる限りの支援活動をし、機会があれば是非とも現地に行つて皆さんと交流できればと思います。

最後に子供達にしっかり学業に専念できることと共に健康をお祈りいたします。

陳本栄



陳本栄さんご一家

ご報告

## 2020年東南アジア教育協力フォーラム へ日本よりオンライン参加

雲南省教育庁主催の「2020年東南アジア教育協力フォーラム」が10月20日、昆明で開かれ、当協会も参加しました。今年のテーマは「守望相助、携手同行」、会期は4日間で、オンラインでの参加となりました。

新型コロナウイルス感染が世界規模で拡大する中、教育への協力のあり方が話し合われました。協会雲南支部と東京本部にオンライン会場を設置し、東洋大学人間環境デザイン学科の名取発教授、一橋大学大学院経営管理研究科の松田雄馬博士、初鹿野恵蘭理事長が東



京本部から参加しました。オンラインは人の接触を減らし、感染リスクを下げるのに効果的です。協会も専門家とともにオンライン技術を利用して雲南省の国際化教育を支援していきたいと思えます。



▲リモート参加の様子

イベント

## イベント中止のお知らせ



新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大を防止するため、協会主催イベントの中止または延期を決定しました。

東京本部

■ 12月19日 協会設立20周年記念式典  
及びチャリティー忘年会 (延期)

大宮支部

■ 新年会 (未定)  
■ 春節パーティー (未定)

各イベントを楽しみにされていた会員・ご協力者・関係者の皆様には大変、申し訳ございませんが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

お知らせ

## 新顧問ご紹介

新世界教育の許緯董事長・総裁にこの度、顧問にご就任いただきました。新世界教育は中国国内最大規模の日本語教育機関で、中国45都市に158拠点を展開。日本語教育に精通した許顧問に助言をいただき、新しい事業を展開したいと考えています。

### 許緯 顧問

皆様、こんにちは。私は教育事業に携わり24年目になりました。中国は広く、残念ながら十分な教育機会に恵まれていない子供がいます。雲南聯誼協会を通して、雲南省の子供達の教育を支援させていただけることは、非常に意義のあることと存じます。微力ながら努力して参りますので、よろしくお願いいたします。



## おたよりコーナー 翻訳ボランティア 永野千絵さん①



永野千絵さん

翻訳ボランティアとして活躍中の永野千絵さんから昨夏の雲南旅行のおたよりと写真が届きましたので、2回にわけてご紹介します。

昨年8月、中国・広州から高速鉄道に乗り昆明へ旅立ち、翌日昆明から鉄道とバスを乗り継いで、玉溪市元江県の甘莊村へ行きました。(私は当時広州に在住でしたので、中国国内移動でした)

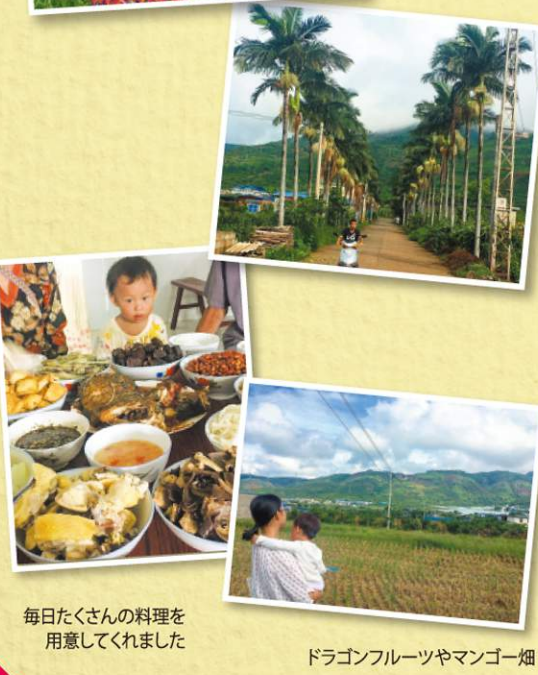
一人旅でしたが、現地に友人がいるので、色々アドバイスももらいながら何とかたどり着けました。

この元江という所は、主にタイ族・ハニ族・イ族が住む自治県で、私の友人はこの中のタイ族の集落の出身です。彼らは普段、広東省中山市に住み、私の大学(中山大学)で日本語教師をして、夏休みの帰省のタイミングに合わせて呼んでもらいました。

彼らの地元はドラゴンフルーツやマンゴー畑が広がる、とてもんびりとした心地のいい田舎でした。ご両親やご近所さんたちもとても良い方で、毎日たくさんのご馳走を用意してくれ、車の荷台に乗せて村中を案内してくれました。

彼々と私は普段中国語(普通話)や日本語で会話をしますが、周りの方々は民族の言葉(タイ語に近い)で話すので私には全く理解できず、彼々の通訳がなければ意思疎通ができませんでした。(ご高齢の方々は、普通話もあまり得意ではありません)それでも毎日顔を合わせてお互いにニコニコしていると、なんとなく気持ちが通じた気がしてうれしかったです。

永野千絵 (翻訳ボランティア)



毎日たくさんの料理を用意してくれました

ドラゴンフルーツやマンゴー畑

## ひろげよう支援の輪 新規会員募集中

1か月500円からできる教育支援  
雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!  
協会を応援して下さる会員を募集します

日本雲南聯誼協会は2000年の設立以来、雲南省の少数民族児童への教育支援を行っています。活動の趣旨に賛同し、支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

正会員	一口 6,000円 (500円/月)
賛助会員	一口 12,000円 (1,000円/月)
法人会員	一口 18,000円 (1,500円/月)

※法人会員は3口以上でお願いします

※正会員と法人会員には総会における議決権があります。賛助会員は事業・活動に賛同し、賛助していただくため議決権はありませんが、賛助会費は寄付金控除の対象となります。  
※4月1日から3月31日までを1年度とします。  
※年度途中で入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算させていただきます。  
会員には会員証を発行し、会報誌「彩雲の南」を年4回(2月、5月、8月、11月)、お送りいたします。

ご報告

## 感謝状贈呈 株式会社セレクトリンクス 桜木 愛 様



株式会社セレクトリンクスの桜木愛社長が10月13日、事務所へいらっしゃいました。桜木様には昨年9月、雲南省南部・金平県の中学校の設備建設のご寄付をいただきました。新型コロナウイルス感染症拡大で渡せなかった感謝状を、ようやくお渡しできました。桜木様の協会へのご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



理解は絆を強くする

## 挑戦! 中国百科検定⑤

日本中国友好協会主催の中国百科検定は2021年3月20日(土・祝)に第9回を全国20都市で実施します。第9回には初めて那覇市も会場となります。受験申込期間は12月1日~2021年2月20日まで。中国百科検定は公式ウェブサイトのほか、TwitterやWeChat(微信)でも情報を発信していますので、是非ご覧になってお申込みください。スマホからQRコードをスキャンしていただければ自動的に中国百科検定サイトに移動します。

今回もウェブサイトで公開しています過去問題から『初級』を2問出題します。



Q1 中華人民共和国と陸地で接していない国はどこでしょうか?  
① 朝鮮民主主義人民共和国 ② モンゴル国  
③ ベトナム社会主義共和国 ④ 大韓民国

Q2 中国語で「ありがとう」の意味になるのは、カタカナで表すとどれ?  
① シイエシエ ② メイヨウ  
③ ザイジェン ④ ハオチー

中国政府の協力のもと、第9回中国百科検定を受験された大学生のうち、成績優秀者を中国にご招待します(訪中時期は新型コロナウイルス感染症収束後に中国の受け入れ機関と調整します)。

◎お問い合わせは日本中国友好協会  
〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-2-3 鈴和ビル5F  
TEL.03-5839-2140 FAX.03-5839-2141  
e-mail: nicchu@jcfa-net.gr.jp

解答  
Q1 = ④ 大韓民国  
Q2 = ① シイエシエ

## 編集後記

アフガニスタンで水路建設に生涯を捧げた医師中村哲さんが亡くなって一年がたちました。福岡県出身の中村さんは、僕の高校の先輩でもあります。医師である彼が「アフガンの人々を救うのであれば、本当に必要なのは医療ではなく水路だ」と水路建設を始めたのは、協会が設立された2000年のことでした。支援する国は違っても「目の前に困っている人がいれば救いの手を差し伸べる」という理念は同じです。先輩の志を引き継ぎたいと思います。

編集長・木本一彰